

葉山町の地域デザイン 「守り、維持する町」

地域デザイン学会 発表予稿原稿

2014年10月

2015年10月 註3) 一部追記

山梨 崇仁

1、はじめに

葉山町は、神奈川県東部の三浦半島の西北部に位置し、北は逗子市、東部・南部は横須賀市に接し、西は相模湾に面している。面積は 17.06k m²で東西にやや長く、市街化調整区域が 70%を占めており、緑被率では 74%の山林や緑に覆われている。町内には、森戸川、下山川の 2本の 2級河川が相模湾に注いでおり、山々は相模湾を還流する黒潮と年間 1,000 ミリを超す降水により、美しい山ひだと美林におおわれている。

葉山海岸は、森戸海岸、芝崎、一色海岸、小磯、長者ヶ崎海岸という砂浜と岩礁が交互に連なっている南北 4 キロメートルにおよぶ美しい海岸線で、平成 8 年には「日本の渚・百選」に選ばれた。夏には 4 つの海水浴場が設置されるうえに、葉山港などの港湾設備、民間の葉山マリーナなども整備されていて、海水浴や磯遊び、ヨットやボート、ウィンドサーフィンなどのマリンスポーツができるポイントとして広く親しまれている。

地理的には東京から 50km 圏内に位置している住宅と観光の町であるが、2014 年 5 月現在、人口は約 33600 人で停滞から微減の傾向にある。町内には鉄道がなく、交通は近隣市の駅からのバス路線が主な交通手段である。

2、御用邸とブランドのはじまり

1889 年（明治 22 年）の町村制実施によって木古庭、上山口、下山口、一色、堀内、長柄の 6 か村が合併して葉山村となる。同年 6 月には横須賀線の開通をみたので、このため、有志の別荘が続々と建てられ、都人士が求めた別荘地としての諸条件を満たし得た土地となった。さらに御用邸をはじめ宮家等の別邸の地として選ばれたことは、保養地としての葉山の名を一層強く天下に示した（高梨 1975）。

1894 年（明治 27 年）に葉山御用邸が竣工されてから、2014 年はちょうど 120 年。古くからは農業や半農半漁の暮らしで苦しい生活を営んでいた葉山地域であるが、御用邸の地として選ばれるには、外国人のイタリア駐日公使のマルチーノやドイツのベルツ博士らが気候の温和や風光のよさを認め、絶好の保養地であることを伝えたことで建設に至った。それに続き御用邸の他、宮家別邸等が建てられ、保養地として栄えた葉山町にはその後も中央の政財界人たちが集まるようになり、政治経済の社交場として、同時に当時の最先端の暮らし、文化が集まる町へと変貌していった。

葉山コロッケで有名な旭日屋牛肉店の北村氏 1) によれば、「その当時、地元の商店や料理店を利用してもらったものだが、社会的地位の高い人々の嗜好に応えるには並々ならぬ努力が必要だった。」という。つまり、その当時の葉山人が、粘り強く顧客の要望に応えるよう努めた成果が、のちの葉山牛や葉山マリーナなどをはじめ、農水商工業における葉山ブランド形成の精神、理念、原動力として活躍し、葉山の品格醸成に大きく寄与した。

3、葉山の海

保養地として、現在においても温暖で保養に適した環境がある。また、関東近圏において、西向きに砂浜を長く保持し、世界遺産の富士山を正面に眺望できる地勢は少ない。同じく明治初期に日本で初めてヨットを出艇させ、「日本ヨット発祥の地」と呼ばれることも有名である。これは船の向きに対して、左右から直角に風を受けることが最もセーリングに適していることを考えると、東西に船首を向け、関東地方に多い南北からの風を受けて、砂浜から出艇・帰着ができる葉山の海浜、港湾環境はセーラーにとっては最適な地であることから、当然のことといえる。また、森戸海岸を中心に漁場としても魚影がとても豊かで、乗合船や貸しボートなど、釣りをしても多種多彩な魚に出会える地域である。

なお、防災の観点から津波の対策が進められている相模湾沿岸であるが、例えば、御用邸のある一色の海岸では、1923 年の関東大震災含め津波や高潮の被害を受けた報告はほぼない。関東大震災では現在の逗子市の地域において行方不明者 5 人の他、漁船漁具の破損流失が 170 以上、家屋喪失複数の報告がなされているが、葉山町内においては、北岸の真名瀬海岸において漁船漁具の破損流失 33、民家 11 戸は屋上浸水した程度（毛塚 1992）である。2012 年 3 月に神奈川県が示した津波浸水想定図においても、実に 7 種類 2)、最大 9m の津波想定にも関わらず、1 種類を除いて海岸線に立地している御用邸にはほぼ浸水がないか、もしくは軽微な浸水で済むとの

予想図が出され、防災上の強固な立地条件が備わっていることが分かる。

4、不便さを乗り越えて住む町

葉山町には鉄道がないため、駅に行くには自家用車やバス等を利用しなければならず、市境からでも大人の足で15分程度は歩かなければ近隣の駅に着けない。通勤通学者は南の横須賀市か北の逗子市の駅利用、もしくは横浜横須賀道路等による車通勤が主である。しかし、このような交通不便地であっても葉山町の自然住環境を好んで住む人々が過去から変わらず多く、第4次葉山町総合計画の素案アンケートの結果（葉山町2013）からも、町に住んでいる最大の理由は「自然環境が良い」ということが第1位に挙げられている。

5、葉山のブランドを支える一次産業

葉山ブランドはさまざまな商品に幅広く、町名としてもブランド的価値を持っているといえる。「葉山」の名を意識したネーミングは町外にまでも影響しており、例えば、横須賀市の秋谷地域は葉山町との南側境界を越えた地域だが、「南葉山」と冠したレストランやマンションも多く、霊園まで存在する。「葉山」の名に恥じない品格、意識を持ち続け、ブランドイメージの存続に配慮しなければならないと考える。ここでは町内の一次産業分野においてブランドとして確立された「葉山牛」と第2のそれを目指す「葉山やさい」を紹介する。

(1) 葉山牛

1977年、町内の生産者が乳牛の肥育から肉用牛の肥育に移行し、松阪牛の品質を目標に始まったのが葉山牛の始まりだった。1984年に神奈川県肉牛共進会で3年連続農林水産大臣賞を受賞し、県や関東肉牛共進会で安定的に優秀な成績を収めるなど、地域全体での評価が高まったことをきっかけに三浦葉山牛の名でブランドを立ち上げた。

大きな特徴は、飯を餌に混ぜることで、高品質牛肉の生産技術を確立させていったことにある。品質としては、肉の深い旨みはもちろんのこと、脂身の融点が低く、舌の上でほどけるような感触とお米の甘さが脂の味わいとして広がる。現在では、三浦葉山牛として三浦半島地域11戸の肉用牛仲間で年間約250頭を出荷、消費者に好評を博している（横内2012）。課題としては、生産量が少なく、「幻の肉」と言われるほど少量、高額の商品となっており、町民でも食したことがない方が多いと言われる点にある。

(2) 葉山やさい

2009年にJAの有志28人によって「葉山野菜の会」が立ち上がった。4箇所の協同圃場で野菜の生産を行い、農協をはじめ、県農業技術センターの支援等を受け特産品づくりと野菜の増産、休耕地の活用を目指して活動している。

こんにゃくや生姜、自然薯やルバーブ、ズッキーニやラディッシュなど、付加価値の高い野菜や、西洋野菜の生産に力を入れ、高品質、生産安定と増産で独自カテゴリの葉山やさいのブランド化を模索している。メンバーには葉山牛を立ち上げた酪農肥育家も参加しており、農業に興味関心の高い一般町民向けに朝市などで、顔の見える販売を主に活動している。課題としては、販売拠点の確保が整っておらず、目下、行政、商工会と連携した施設確保を目指している。

6、高額納税者の多い町の行政サービス

葉山町は課税所得額が全国で12位（山梨2012）という結果があり、高額納税者が非常に多い。行政の一般会計収入では、2012年度決算では町税が全体の59%を占めているうえに、個人町民税、固定資産税、都市計画税だけでその内の95.1%を占めている。法人町民税は2.1%しかない。つまり、高額納税の多くが個人によるもので、いわゆるお金持ちの住民が多い地域といえる。しかし、このような裕福な税収がありながら、葉山町には総合体育館や町民プールのような公立の余暇施設が少ない。例えば、保育園の数では、政令市等を除く神奈川県下27自治体の平均4.5人の児童に1園が設置されているのに対して、葉山町では児童10.6人に1園と最も少なか

った2)。そして、それらを補完したり代替したりする他のスポーツ施設や福祉施設があるわけではないことから、決して優れた行政サービスという評価はできない。

7、下水道やごみの戸別収集の試み

葉山町の大きな政策を2点挙げると、1点は公共下水道事業。2点目は、ごみ処理事業であり、葉山の価値を評する参考事例として紹介する。

(1) 公共下水道事業

葉山浄化センターは1992年に着工、1999年に共用開始した。海岸から約4.7km、海拔35mの位置にあり、海岸付近に集約された汚泥をポンプアップするという全国的にも極めて珍しい施設4)である。2013年度までに、処理場、及びポンプ場の建設経費に約134億4300万円かかり、その後、敷設工事は約200億5600万円投入して、人口普及率は59%達成された。2014年現在でも約88億円ある町債残高は財政的に大きな負担となっているが、御用邸の町として、また豊かな自然を保全する町としては、その効果を誇れる施設でもある。山間部において排水され、自然浄化も受けた海岸の水質は、御用邸のある一色海岸では9年連続でAAを記録(環境省2014a)している。また、水質の保全に合わせて、海岸線に下水処理場があることの景観やイメージの悪化を避けることもできている。

(2) ごみの戸別収集

葉山町では、2014年6月より全町にてごみの戸別収集を無料にて行っている。有料袋を使用することで減量化の推進を図る自治体が多いことは周知のとおりだが、葉山町においては、無料で各戸に職員が3種類5)のごみの戸別収集を実施、その他のごみは資源物として、町内会と委託業者の直接契約によりステーション収集する方式で事業を推進している。他の自治体同様、ごみの資源化減量化が目的であるが、「無料のため効果が薄く、ごみは減らないのではないか」、「町民の利便性が上がるものの、手間の面から行政の収集コストが上がるのではないか」といった懸念があったが、町内の先行5地区での取り組みの成果6)を踏まえ、実施に至っている。

本来は行政責任における廃棄物処理事業であるが、排出とその分別の実行者は町民であり、町民の行政への協力度合いの高さが肝要な施策である。そのため、行政と町民の信頼関係が必須であり、互いが常に協力関係を保持するよう意識して取り組まなければならない。全町実施時における分別方法変更の説明会には、3ヶ月間で100回以上、延べ6000人以上の住民参加を経て実施に至っているが、施策そのものに反対する意見は少なく、環境保全に関する意識の高さがうかがえた。同様の手法で可燃ごみ収集をしている自治体は全国に20自治体あり、北海道から関東地方では東京都品川区、国分寺市、千葉県浦安市のみである(環境省2014b)。

8、終わりに ～これからの葉山、町民にとって誇れるブランドであるということ～

2014年4月現在、葉山町の65歳以上の人口を占める高齢化率は29.3%で、近隣の逗子市が29.9%(逗子市2014)であり、逗子・葉山は地域的に高齢化が進んでいる。2014年1月現在、神奈川県下33市町村において葉山町は8番目の高齢化率である。しかし、一方で75歳以上の後期高齢者医療制度の一人当たりの医療費支出を比較してみると、2012年度では、神奈川県下で27番目(神奈川県2012)であり、高齢化が進んでいながらも医者にかかる等の医療費が少ないことから、それだけ健康な年配者が多い地域とも考えられる。

為政者として、いまの葉山町がとるべき方針は、町民の皆さんが「土日を葉山で過ごそう」と考えてくれるようになることと考えている。また、外部からは御用邸と別荘の町としての品位を保持し、「いつかは葉山へ」と思ってもらえるような憧れの地としての魅力の発信に努めることが挙げられる。それら町内外への発信には、例えば第一産業の活性化による地産地消の推進で、町内での流通の活性化・サイクル化を図ることや、日常から町内の自然、文化に親しめる公園や休憩スペースなどの空間の確保、家族連れや小中学生が訪れるレクリエーション施設の設置など、町内に価値を見出すことが依然として重要である。そして、ITやメディアを活用した広報に力を入れることで、若年層への葉山町の浸透を図りつつ、現役世代から高額所得者層の移住を促すイメージの構

築が重要である。

そもそも都内から1時間程度の通勤圏7)にありながら、年間を通じて安定した気候と風光明媚な地域として御用邸の町、別荘の町は繁栄してきた。言うなれば、人が海や山の自然と共生すること、そこで得られる安らぎを、日々の暮らしの中で感じることができ、一方で都内や横浜などの大都市圏へ通勤に出ることも毎日の行動として現実的に可能な地域という点で、継続的な住宅地としては極めて優位な要件を兼ね備えた地域であると考えられる。行政としては、この価値を普遍的な財産と捉え、自然環境の保全と合わせた住環境の維持向上、計画的な開発とその抑制、そして公共交通機関との連携によるスムーズな道路利用の確保などを魅力向上の基本的事項として重要視したうえで、地域デザインとブランディングを図らなければならない。また、1町でクリアできない課題や魅力向上に力不足な点については、近隣4市1町の首長が集まった三浦半島サミット8)を開催しており、三浦半島内のゾーニングを検討したり、自治体単独よりスケールメリットのある業務の連携により、それぞれの強み、価値を活かした魅力向上に努めたりと議論を重ねている。

潮風、鳥のさえずり、窓から臨む緑の稜線、健康で落ち着きのある町民性、このように人間の生来において必要とされる条件を満たした町であるからこそ、葉山のブランドは、将来にわたって内外の人々の心に生き続け、価値あるものとして認められ続けると確信している。

註

- 1) 北村氏は2014年現在、葉山町商工会の副会長。1901年創業の老舗牛肉店の店主である
- 2) 慶長型地震・元禄型地震・神奈川県西部地震・東海地震・南関東地震・明応型地震・房総南東沖地震の7種類を想定して発表した
- 3) 葉山町子ども育成課による調べ、2013年。横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市および清川村を除く。(2015年10月60人定員の認可保育園が新設され、状況は改善に向かっている。2015年10月追記)
- 3) 葉山町下水道課の調査段階では、2014年現在、葉山町と同様のトンネル方式でポンプアップ方式を採用している自治体は他では確認できていない。
- 5) 可燃ごみ、容器包装プラスチック、その他廃棄プラスチックの3種類
- 6) 2013年2月より3地区を追加して、計5地区1560世帯3744人を対象に実証実験を済ませており、平均50~17%の減量化が達成されていることを踏まえた
- 7) JR逗子駅から新宿駅まで湘南新宿ラインを利用した場合、1時間~1時間6分程度(筆者調べ)
- 8) 2013年10月第1回三浦半島サミットが鎌倉市役所にて開催。第2回は2014年4月30日に逗子市役所にて開催されている

【引用・参考文献】

神奈川県後期高齢者医療広域連合(2012)『平成24年度神奈川県後期高齢者医療事業報告書』

環境省(2014a)『水浴場の水質調査結果』http://www.env.go.jp/water/suiyoku_cho/index.html(2014.7.15アクセス)

環境省(2014b)『平成24年度一般廃棄物処理実態調査結果』HPより筆者抽出

http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h24/index.html(2014.7.15アクセス)

毛塚五郎(1992)『関東大震災と三浦半島』丸庄商事

高梨炳編纂(1975)『葉山町郷土史』神奈川新聞出版

逗子市(2014)『例月高齢化率調べ』

葉山町(2013)『「第四次葉山町総合計画」策定に向けたアンケート調査集計結果報告書』

山梨崇仁(2012)「山梨たかひとマニフェスト」葉山の新しいリーダーを育てる会

横内圀生(2012)「都市近郊の有利性を生かした高級ブランド牛肉への挑戦」『農業2012年9月号会誌1563号』大日本農会